

# LSC-MA7

## ユーザーズマニュアル

Ver.1.0.0

2009/7/29

ヤマハ株式会社

本書の著作権は、ヤマハ株式会社に属しています。  
本書の内容の転載・一部複製には、ヤマハ株式会社の承諾が必要です。  
また、本書の内容は予告なく変更される場合があります。



Copyright(c) 2009 Yamaha Corporation

All rights reserved

## &lt;更新履歴&gt;

Ver.	Date	内容
1.0.0	2009/7/29	新規作成

## &lt;目次&gt;

1	概要	4
1.1	LSC-MA7の機能	4
1.2	対象フォーマット	4
1.3	推奨動作環境	4
1.4	インストール	4
2	アプリケーションの起動と終了	5
2.1	アプリケーション構成	5
2.2	起動	5
2.3	終了	5
3	ウィンドウ	6
3.1	メインダイアログ	6
3.1.1	リストビュー	7
3.1.2	システムメニュー	8
3.2	プログレスダイアログ	9
3.3	上書き確認ダイアログ	9
4	メッセージ	10
4.1	Resultメッセージ	10
4.1.1	OKの場合	10
4.1.2	NGの場合	10
5	変換時の注意事項	11
5.1	コンテンツ情報 (MA-1、MA-2)	11
5.2	曲中のチャンネルボリューム (MA-1)	11
5.3	システムエクスクルーシブピッチバンドMSB、LSB (MA-2)	11
5.4	ピッチバンドレンジ (MA-2)	11
5.5	モノモード、ポリモード (MA-1、MA-2)	11
5.6	表示系SMAF/MA-2	11
5.7	音色 (MA-1,MA-2)	11
5.8	ADPCMの音量 (MA-2)	12

## 1 概要

---

本ドキュメントは LSC-MA7 の使用方法を記述したものです。

### 1.1 LSC-MA7 の機能

---

LSC-MA7 は、SMAF/MA-1 (Synthetic Music Mobile Application Format MA-1)、SMAF/MA-2 を SMAF/MA-7 に変換する、Windows®XP、Windows®Vista 上で動作するアプリケーション・ソフトウェアです。

LSC は、Legacy SMAF Converter の略です。

### 1.2 対象フォーマット

---

入力フォーマット	SMAF/MA-1、SMAF/MA-2
出力フォーマット	SMAF/MA-7

### 1.3 推奨動作環境

---

本アプリケーションは、以下に準じた動作環境が必要です。

対応オペレーティングシステム	Microsoft® Windows® XP Microsoft® Windows® Vista
CPU/クロック	Pentium®/Celeron™ または互換プロセッサ 266MHz 以上
メモリー	64MB 以上
必要なハードディスク空き容量	40MB 以上

### 1.4 インストール

---

インストーラはありません。 適当な位置にファイルをコピーして使用してください。

## 2 アプリケーションの起動と終了

---

### 2.1 アプリケーション構成

---

アプリケーション本体のみで構成されています。

ファイル名	内容
LSC-MA7.exe	アプリケーション本体

### 2.2 起動

---

LSC-MA7.exe またはショートカットをダブルクリックするか、スタートメニューの「ファイルを指定して実行」でファイル名を直接入力します。

### 2.3 終了

---

タイトルバーのシステムメニューより「閉じる」を選択、タイトルバー右の閉じるボタン (☒) を選択、またはメインウィンドウがアクティブになっている状態で[ALT]+[F4] ([Alt]を押しながら[F4]) を押します。

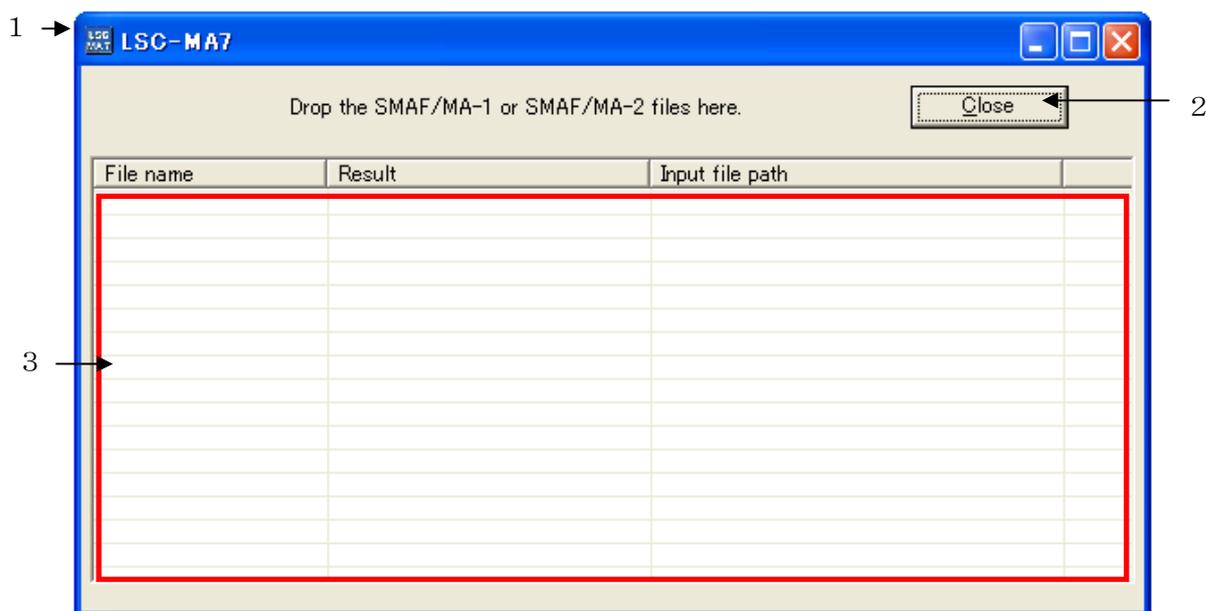
### 3 ウィンドウ

#### 3.1 メインダイアログ

メインダイアログです。アプリケーションを起動すると表示されます。

メインダイアログ上に、変換対象となる SMAF/MA-1、SMAF/MA-2 をドラッグ&ドロップすることによりファイルの変換処理を行います。

処理が成功した場合、入力ファイルと同じディレクトリの 'OUTPUT'フォルダ以下（無い場合は自動生成して）に出力します。

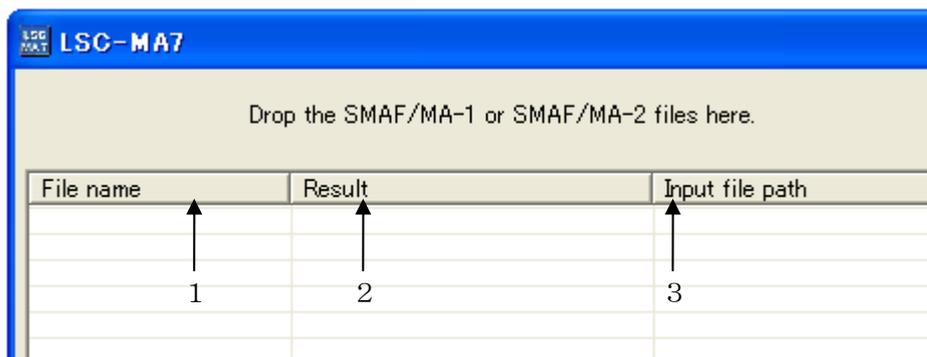


<図 3-1> メインダイアログ

No	機能名	内容
1	タイトルバー	タイトルバーではアプリケーション名の'LSC-MA7'を表示します。
2	Close ボタン	Close ボタンをクリックすると、現在のダイアログを閉じアプリケーションを終了します。[Alt]+[F4]も同様です。
3	リストビュー	変換処理の情報を表示します。 詳細は、 <a href="#">3.1.1リストビュー</a> を参照ください。

### 3.1.1 リストビュー

変換処理の情報を表示します。



<図 3-2>メインダイアログ/リストビュー

No	機能名	内容
1	Filename	処理済みファイルのファイル名を表示します。
2	Result	処理済みファイルの処理結果および詳細情報を表示します。 <処理結果> ・OK：詳細 ・NG：詳細 詳細は <a href="#">4.1Resultメッセージ</a> を参照して下さい。
3	Input file path	処理済みファイルのファイルパスを表示します。

### 3.1.2 システムメニュー

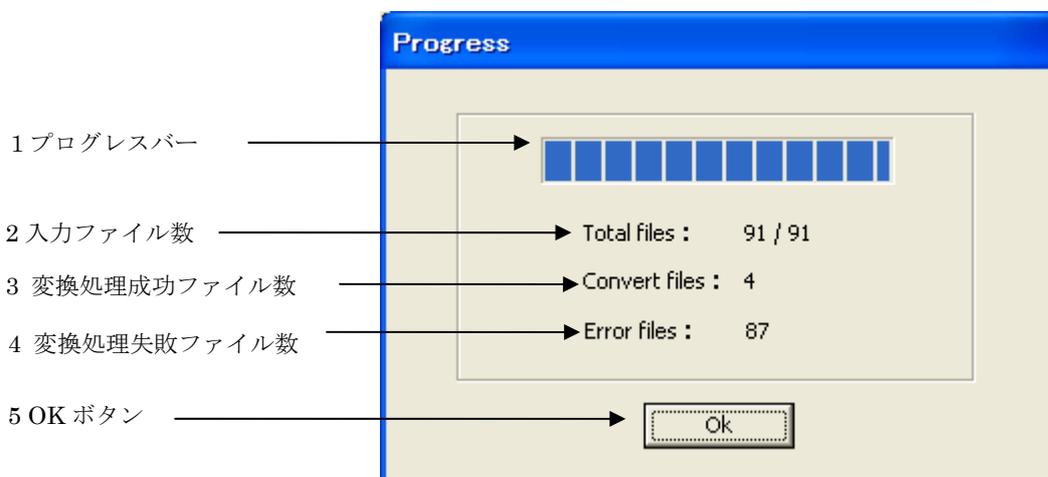
タイトルバーの左隅にあるアイコンをクリック、またはタイトルバーの任意のところを右クリックしてもシステムメニューが表示されます。



No	機能	内容
1	元のサイズに戻す (R)	最大化表示された状態から元のサイズに戻します。最大化されたときのみ有効です。
2	移動 (M)	アプリケーション・ダイアログを移動可能状態とします。移動可能状態となったダイアログは、タイトルバーをマウスでドラッグすることで移動できます。
3	サイズ変更 (S)	アプリケーション・ダイアログをサイズ変更可能状態とします。サイズ変更可能状態となったダイアログは、外枠をドラッグすることでダイアログのサイズを変更することができます。最大化および最小化された状態ではマスク表示され選択できません。
4	最小化 (N)	アプリケーション・ダイアログを最小化表示します。最小化された状態ではマスク表示され選択できません。
5	最大化 (X)	アプリケーション・ダイアログを最大化表示します。最大化された状態ではマスク表示され選択できません。
6	閉じる (C)	アプリケーション・ダイアログを閉じます。[Alt]+[F4]も同様です。
7	Version Infomation(A)	バージョン情報を表示します。

### 3.2 プログレスダイアログ

処理状況をプログレスダイアログで確認できます。



<図 3-3> プログレスダイアログ

No	機能名	内容
1	プログレスバー	処理の終了したファイル数の割合をグラフィカルに表示します。
2	入力ファイル数	入力されたファイルの総数を表示します。 変換処理終了ファイル数 / 総ファイル数
3	変換処理成功ファイル数	変換処理に成功したファイル数を表示します。
4	変換処理失敗ファイル数	変換処理に失敗したファイル数を表示します。
5	OK ボタン	処理中の「STOP」表示時の操作で、処理の途中終了が可能です。処理を終了すると「OK」の表示に変わります。「OK」の操作によりダイアログを閉じます。

### 3.3 上書き確認ダイアログ

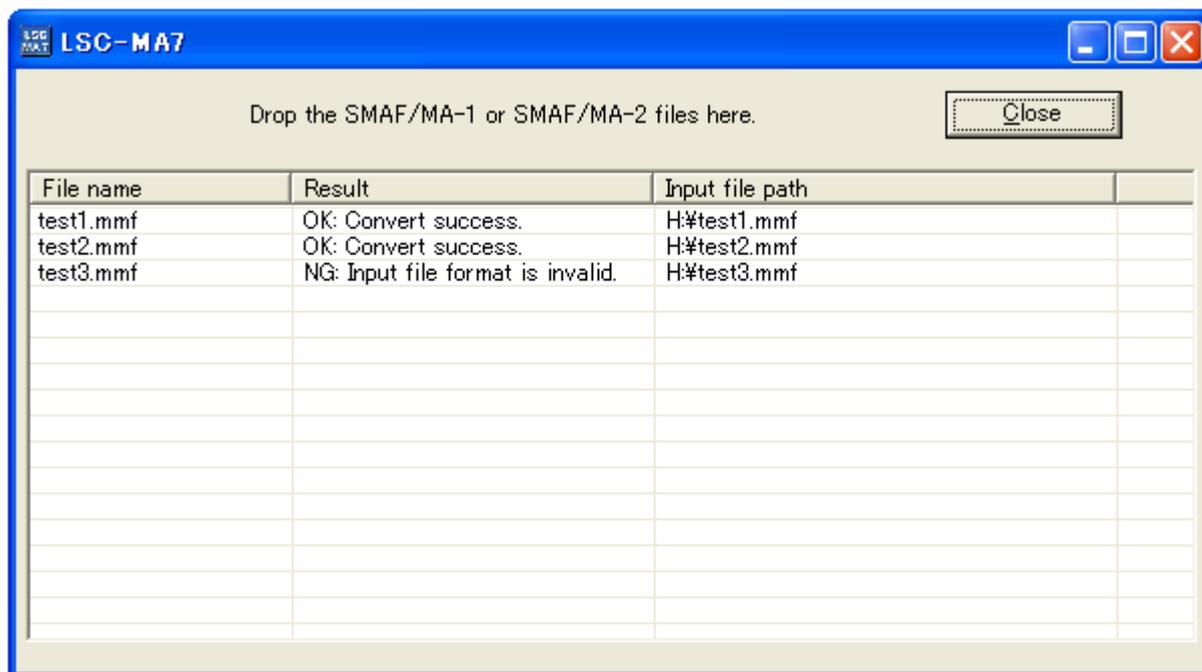
出力先に同名のファイルが存在した場合に表示されるダイアログです。「はい(Y)」の選択によって以降の処理のすべてを上書きモードで行います。「いいえ(N)」を選択するとそこで処理は終了します。



<図 3-4> 上書き確認ダイアログ

## 4 メッセージ

入力されたファイル名（ファイルパス）と処理結果をメインダイアログに表示します。



<図 5-1>メインダイアログ

### 4.1 Result メッセージ

#### 4.1.1 OK の場合

メッセージ	説明
OK: Convert success.	正常に変換された。

#### 4.1.2 NG の場合

メッセージ	説明
NG: File open error.	入力ファイルをオープンできない場合。
NG: Input file is not SMAF.	入力されたファイルの拡張子が".mmf"でない場合。
NG: Input file size is 0.	入力されたファイルのサイズが 0 の場合。
NG: Input file format is invalid.	入力されたファイルの拡張子が".mmf"であるにも関わらず、フォーマットが SMAF/MA-1 でも SMAF/MA-2 でもない場合。
NG: Output file open error.	出力ファイルをオープンできない場合。
NG: File write error.	出力ファイルの書き込みに失敗した場合。
NG: Convert error.	汎用エラー。
NG : Convert Cancel.	出力ファイルの上書きを中断した。

## 5 変換時の注意事項

変換後の SMAF/MA-7 が、元の SMAF/MA-1、SMAF/MA-2 の発音と異なる場合があります。ここで言う元の SMAF/MA-1 と SMAF/MA-2 の発音とは MA-7 で再生した時の発音のことです。以下に変換時に注意すべき事項を上げます。

### 5.1 コンテンツ情報 (MA-1、MA-2)

元ファイル (SMAF/MA-1、SMAF/MA-2) のコンテンツ情報は SMAF/MA-7 に引き継がれません。

### 5.2 曲中のチャンネルボリューム (MA-1)

曲中のチャンネルボリュームは、そのまま変換を行います。SMAF/MA-1 のチャンネルボリュームについて曲中で音量が変化しませんが SMAF/MA-7 では曲中で音量が変化します。そのことにより発音が異なる場合があります。

### 5.3 システムエクスクルーシブピッチバンド MSB、LSB (MA-2)

システムエクスクルーシブピッチバンド MSB、LSB メッセージが使用されている SMAF/MA-2 を SMAF/MA-7 に変換すると SMAF/MA-2 と SMAF/MA-7 の再生仕様差により発音が異なる場合があります。

※ノートオンとオフの間にピッチバンドメッセージがある SMF を MA-2 オーサリングツールで SMAF/MA-2 に変換すると SMF のノートメッセージとピッチバンドメッセージが、SMAF/MA-2 システムエクスクルーシブピッチバンド MSB、LSB メッセージに変換されます。

### 5.4 ピッチバンドレンジ (MA-2)

SMAF/MA-2 システムエクスクルーシブピッチバンド MSB、LSB メッセージを SMAF/MA-7 ノートメッセージとピッチバンドメッセージに変換する際に、ピッチバンドの変化幅に合わせて SMAF/MA-7 のピッチバンドレンジを変更します。この時、ピッチバンドの変化幅が 24 を越えた場合は非対応となるため発音が異なってしまいます。(エラーにはなりません)

また変換時にピッチバンドの変化幅が大きくなると、ピッチ精度が荒くなるため元の SMAF/MA-2 発音と異なる場合があります。

### 5.5 モノモード、ポリモード (MA-1、MA-2)

SMAF/MA-1、SMAF/MA-2 はモノフォニック発音ですが、SMAF/MA-7 はポリフォニック発音になるためリリース音が長い音色を使用すると変換後の SMAF/MA-7 の発音が異なる場合があります。

### 5.6 表示系 SMAF/MA-2

表示系 SMAF/MA-2 を変換したときは、表示系のデータは削除されます。

### 5.7 音色 (MA-1,MA-2)

SMAF/MA-1、SMAF/MA-2 の音色と、SMAF/MA-7 の音色の仕様差により発音が異なる場合があります。

## 5.8 ADPCM の音量 (MA-2)

---

SMAF/MA-2 と SMAF/MA-7 の再生仕様差により ADPCM の音量が異なるため調整をしていますが、音量が完全に一致しない場合があります。